

2025

大通高校 Q & A



◆◆これまで多く寄せられた質問にお答えします◆◆

- 入学者選抜について、具体的な選抜の基準や配点等はお答えできません。
- 「通級による指導」に関してのご質問には大通高校の担当者がお答えします。

※このQ&Aは、生徒・保護者に配布しても構いません。

<学校の制度や学習について>

Q1：単位制高校はどんな学校ですか？

A1：卒業までの間に必ず学習しなければならない科目（必履修科目）の他は、一定の科目履修のルールのもとで、自分で受講したい科目を選んで時間割を作ることができる学校です。多くの科目を選ぶこともできますし、少なめに選ぶこともできます。

Q2：「単位」とは何ですか？

A2：「単位」は科目によって数が定められています。授業35単位時間で「1単位」です。本校では2単位時間続き（1コマ）で半年ごとに学習する科目が多く設定されています。週に1コマの授業がある科目を半年間学習すると1単位になります。3年間または4年間在籍し、74単位以上を修得することで卒業が可能となります。

Q3：必履修科目の単位数はどれくらいあるのですか。またそれ以外は、自由に科目を選択してよいのですか？

A3：個々の生徒によって単位数の違いはありますが、必履修科目の単位数は40単位前後です。また、総合的な探究の時間とLHRも、全員が定められた時間数の授業をします。それ以外の科目については、他部を含めて一定の科目履修のルールのもとで自由に科目選択ができます。

Q4. 大通高校では何年まで在籍することができますか？

A4：最大6年間まで在籍可能です。留年はありませんが、4年次が最高年次なので、5年目、6年目の生徒も4年次のクラスに所属します。

Q5：三部制の「部」とは何ですか？

A5：本校は午前部・午後部・夜間部の3つの部があり、入学時にいずれか1つの部に所属します。自分が所属する部で決められたいくつかの科目のほか、ロングホームルーム(LHR)や総合的な探究の時間などの科目を学びます。自分の所属する部以外（他部）の授業も選択することができます。

Q6：志望の所属部を決めるにあたって気をつけることはありますか？

A6：自分の生活リズムにあった所属部を志望することをお勧めします。入学したときの所属部は卒業まで変わりません。また、他部の授業を履修する場合には、原則、他部の授業数は自分の所属部の授業数以内にならなければならないというルールがあります。

Q7：たくさんの科目がありますが、科目選択はうまくできるでしょうか。

A7：科目選択にあたっては、必履修科目や単位数について、ガイダンスなどによって十分に説明をします。また、個々の生徒と教員との面談をしっかりと行い、興味、関心、進路希望について話し合いながら、ひとりひとりの生徒にあった科目の選択が行えるようにします。1年間を通じて学習する科目もありますが、多くの科目は半年間の学習期間で単位認定をしています。時間割も半年ごとにかわります。

Q8：他部の授業も学習しないと卒業できないのですか？

A8：自分が所属する部の授業だけでも、4年間学習すると卒業に必要な74単位の修得を満たすことができます。

Q9：3年で卒業するための授業の取り方はどのようになりますか？

A9：自分が所属する部の授業に加えて他部の授業を週に2コマ程度学習することで、卒業に必要な単位の修得を満たすことができます。約3分の1程度の生徒が3年で卒業しています。

Q10：他部の授業を履修する場合、その授業まで長い時間待たなければならないのですか？

A10：午前部、午後部、夜間部それぞれの間には、昼食休憩時間、夕食休憩時間があります。また、自分の部の直前・直後の時間に、自分のとりたい科目があるとは限りません。3時間または、それ以上待たなければならない場合もあります。その場合は、図書室などで自習をしたり、ラウンジ等で休憩をすることができます。

Q11：基礎・基本から学習ができますか？

A11：文科省の「指導要領」が改定期を迎え、1年次用に開講してきた学び直し科目「チャレンジベーシック」が令和3年度をもって閉講となりました。令和4年度から、学び直し支援は以下のような形で行っています。

- 中学校の学習内容を振り返りながら、高校での学習に無理なく取り組めるような授業を展開しています。
- 「総合的な探究の時間」で、学ぶことの意味を生徒自身が改めて考える授業を実施します。
- 各教科の先生に聞きたいことがあればいつでも相談できます。

Q12：大学受験向けの教育課程ではないのですか？

A12：大学受験に対応する科目も開講しています。ただし、受験科目によっては全ての部で開講していないものもあります。その場合は、他部履修することになります。模擬試験の校内実施や、校外模試の案内も行っています。また、夏季・冬季休業中の勉強会も行っています。

Q13：公務員試験等への対応はありますか？

A13：個々の生徒に応じて指導をおこないます。また、校内外実施の公務員模試の案内も行います。

<学校生活について>

Q14：全校行事は、どのような時間帯に行われますか？

A14：全校生徒が同じ時間帯で活動する行事は午後の時間帯を中心に行われることが多いです。定期考査も昼に近い時間から午後の時間帯で行われています。

Q15：校則はあるのですか？ 制服はあるのですか？

A15：学校生活は集団生活ですから一定のルールは設けています。制服はありません。

Q16：部活動はあるのですか。場所は？時間は？

A16：現在、バスケットボール(男・女)、バレーボール(男・女)、バドミントン(男・女)、卓球(男・女)、陸上競技、生物、アニメ・イラスト、吹奏楽、書道、和太鼓・伝統芸能、囲碁・将棋、美術、文芸、遊語、写真、ダンスサークル、茶道サークルの他に生徒会外局のメディア局、図書局があります。平日の部活動は、昼食や夕食の休憩時間や選択している授業がない時間に行うことになります。体育館や教室の使用状況を見て部活動に使用できる時間帯を調整して行ないます。なお、野球部、サッカー部はグラウンドが狭いので作りません。

Q17：食堂はありますか？

A17：食堂は昼食休憩時間と夕食休憩時間に営業しています。夕食は夜間定食があり、札幌市の補助を受けており、1食340円で栄養バランスの良い食事をしっかりとることができます。

<学校でかかる経費について>

Q18：年間にかかる経費はいくらですか？

A18：1年次は学校徴収金が7万円で、入学時に納入していただきます。他に体育用ジャージ・上靴（16,500円程度）、タブレット（63,100円程度、詳細については入学時に周知します）を購入いただきます。また、選択する講座によって実習・教材費が必要になる場合があります。教科書代は選択する科目によって異なります。2年次以降の学校徴収金は、10,680円です。
(学校パンフレット「未来2025」p11をご覧ください。)

<入学者選抜について>

Q19：午前部・午後部・夜間部とも同じ試験なのですか。面接はどのような形態ですか？

A19：同じ試験です。個人面接です。

Q20：すでに中学校を卒業した生徒も、自己推薦入学者選抜を受検することは可能ですか。

A20：可能です。出願手続きは卒業した中学校経由となります。ただし、年齢によっては、直接、本人からの出願となりますので、事前にお問い合わせ下さい。

Q21：学区はどのようなのですか？

A21：北海道全域です。

Q22：自己推薦で不合格の場合、再出願はできるのですか？

A22：本校の一般入学者選抜を含め、他の全日制高校へも定時制高校へも再出願ができます。

<海外帰国生徒等について>

海外帰国生徒等とは、次のいずれかに該当する者とする。

1. 「外国籍を有する者で、来日後5年未満の生徒」及びこれに準じる者と市立札幌大通高等学校長が認める者。
2. 「父母のいずれか一方が引揚者であり、引揚後5年未満の生徒」及びこれに準じる者と市立札幌大通高等学校長が認める者。なお、引揚者とは、永住帰国者証明書を有する者をいう。
3. 「日本国籍を有する者で、海外在留者に同伴して、引き続き1年を超える期間海外に在留し、帰国後3年未満の生徒」及びこれに準じる者と市立札幌大通高等学校長が認める者。

(「札幌市立高等学校入学者選抜の手引」 留意事項より)

Q23：海外帰国生徒等は、入学後はどのように学習を進めますか？

A23：本校では海外帰国生徒等枠で入学した生徒に対して、入学前、在籍中、卒業時の進路指導等の支援を保健支援部にて行っています。1年次では在籍するクラスとは別に、「国際クラス」に所属して「やさしい日本語」でのホームルーム対応をしています。日本語の理解力に応じて1～2年間「日本語」の授業を受け、徐々に普通教科、専門教科の学習をしていきます。ほかの生徒と一緒に授業を受けますが、取り出し授業（海外帰国生徒等のみが受講する授業）を行う科目もあります（現在は国語、地歴公民の必履修科目）。行事などもほかの生徒たちと変わりなく、一緒に参加します。週1回の母語の課外授業にも参加しています。